

MORI・YAMA・EN

幅広い分野で事業を展開 農家が抱える問題と向き合い、地域農業を守りたい



販売している加工品



開発・販売しているクラウドシステム

輝くみらい人

石川基幹支店管内
もりやま園株式会社

代表 **森山 聡彦** さん (50歳)
もりやま としひこ

- **法人化に至った経緯について**
面積が9.7ヘクタール以上あるりんご農園で家族経営していましたが、高齢化や人手不足などの問題が生じていました。問題を解決するために法人化したいと考え、平成27年に「もりやま園株式会社」を設立しました。
- **事業内容や取り組みについて**
りんごの生産・販売のほかに、摘果りんごを使用したシードルやアップルソーダなどのオリジナル加工品を開発して販売しています。また、農業者向けのクラウドシステムの開発・販売も行っています。会社は現在8期目に入り、軌道に乗り始めましたが、はじめの5年間は赤字でした。知名度や取引先が0の状態から軌道に乗せることは何年もかかることなので苦労しました。
- **開発したクラウドシステムについて教えてください**
最初に県内のIT会社と共同開発したシステムは、果樹栽培に特化したクラウドアプリケーション「Ad@m(アダム)」です。りんご園と農作業を数値として可視化するためのシステムで、社員一人一人にスマホを持たせ、作業開始時に木1本ずつに取り付けたバーコードを読み取ることによって、作業時間を記録することができ、作業データを分析し、栽培状況を可視化することで品種別の労働生産性を把握でき、経営改善につながる作業計画を作成したり、採算品種と不採算品種を算出し、品種構成の見直しを検討することが可能になります。平成29年には他社でも導入が始まり、令和元年には東京都のIT会社と共同で改良を加え、「Agrion(アグリオン)果樹」として再スタートし、全国的に導入生産者が増えています。
- **将来の夢や今後の目標**
りんご産業は高齢者が多く、後継者である若い人が少ないのが現状です。農家が少なくなるだけでなく、二次産業や三次産業の仕事もなくなってしまう。これらを守るために、地域農業の活性化を図り、農業を成長産業にしていきたいと考えています。